

この度は、OM-215：ワンマンブリーダーのお買い上げ誠にありがとうございます。
ご使用前に内容品の確認と使用時における注意事項を熟読頂き、ご理解の上ご使用くださいますようお願い致します。

【適応】

オートバイ～小型トラック程度



二輪

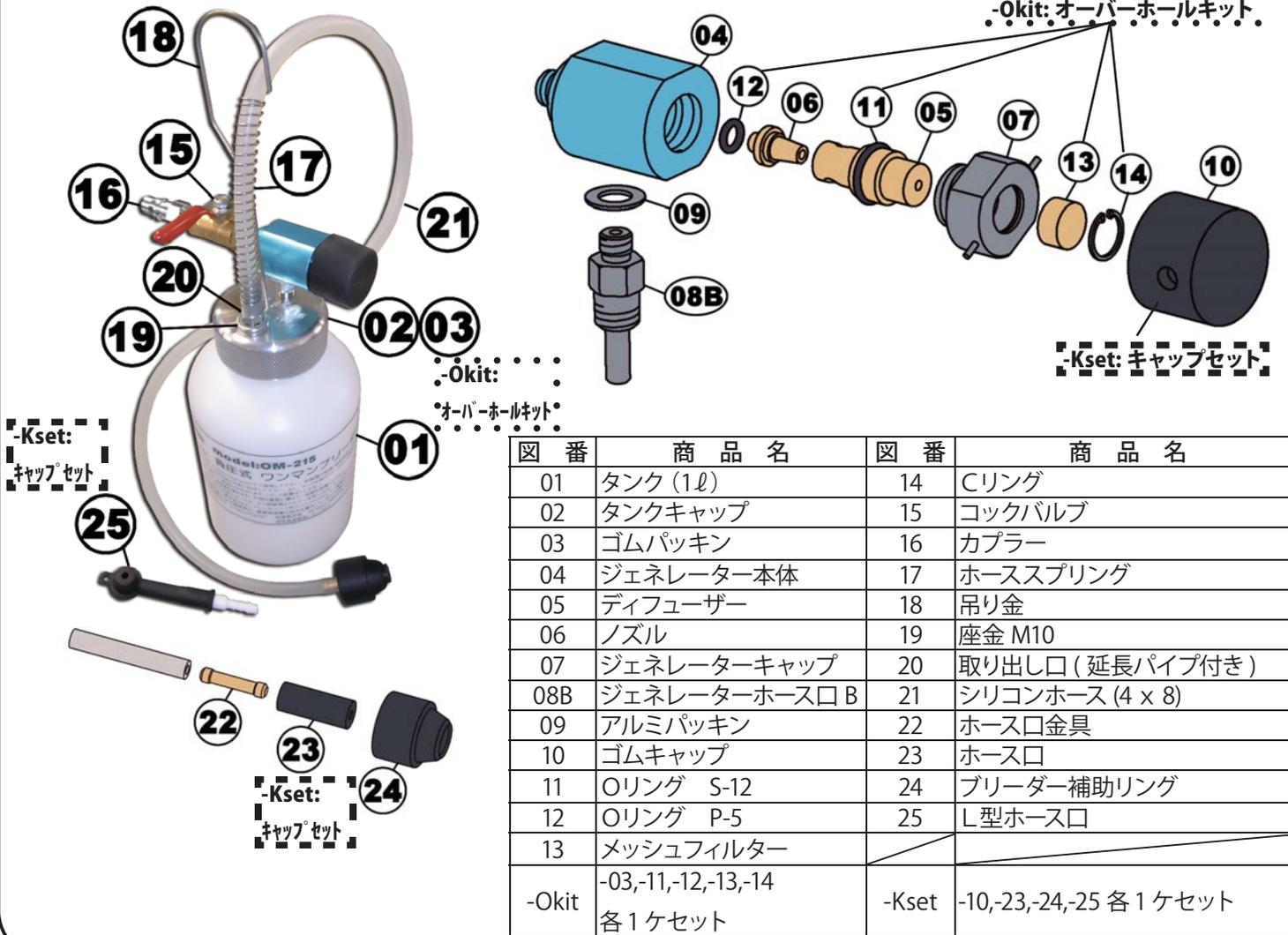


軽～乗用車



小型

【各部名称】



| 図番 | 商品名 | 図番 | 商品名 |
|-------|-------------------------------|-------|------------------------|
| 01 | タンク (1ℓ) | 14 | Cリング |
| 02 | タンクキャップ | 15 | コックバルブ |
| 03 | ゴムパッキン | 16 | カプラー |
| 04 | ジェネレーター本体 | 17 | ホーススプリング |
| 05 | ディフューザー | 18 | 吊り金 |
| 06 | ノズル | 19 | 座金 M10 |
| 07 | ジェネレーターキャップ | 20 | 取り出し口 (延長パイプ付き) |
| 08B | ジェネレーターホース口 B | 21 | シリコンホース (4 x 8) |
| 09 | アルミパッキン | 22 | ホース口金具 |
| 10 | ゴムキャップ | 23 | ホース口 |
| 11 | Oリング S-12 | 24 | ブリーダー補助リング |
| 12 | Oリング P-5 | 25 | L型ホース口 |
| 13 | メッシュフィルター | | |
| -Okit | -03,-11,-12,-13,-14 各1ケセット | -Kset | -10,-23,-24,-25 各1ケセット |

【※使用上の注意※】

- ・供給エア圧力は、0.7Mpa (7Kgf/cm²) 以下で使用してください。
- ・廃油は、タンクの8分目を超える前に処分してください。
- ・タンクを揺らしたり傾けるとサイレンサー部より廃油が吹き出しますのでご注意ください。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めますのでご注意ください。
- ・ブリーダー補助リングでエア吸い込みを防止できず、ホース内のフルードから気泡がいつまでも消えないことがあります。その時は、ブレーキパーツ用ラバーグリスなどで隙間をシールしてください。
- ・ゴム部品、ホース部品は消耗品です。
- ・使用温度範囲：0℃～60℃です。

使用方法

※用意するもの

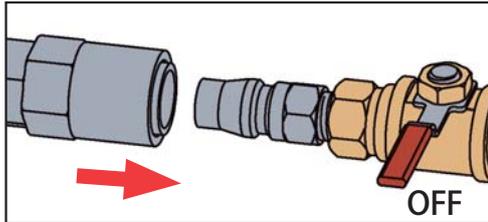
- ・ブレーキフルード
- ・自動供給器
- ・エアコンプレッサー
- ・スパナ



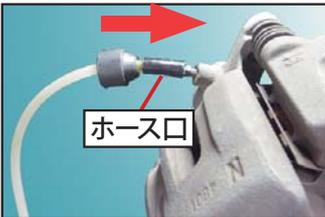
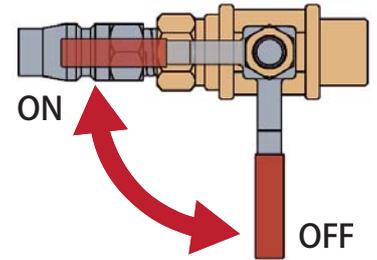
▲上図は OM-213 を使用

リザーバータンクが空にならないように自動供給器をセットします。

推奨



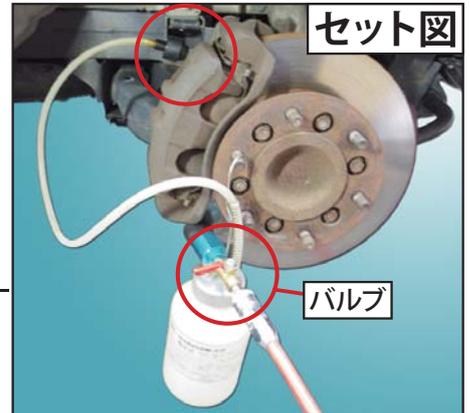
バルブを閉じたままエアーを繋ぎます。
エアー圧力は 0.5 ~ 0.7Mpa



ホース口

ブリーダープラグにホース口を差し込みます。
プラグを "1/2 回転" 程度緩めます。

マスターシリンダーが空の時は予めブレーキペダルを
数回踏んでフルードを送り込みます。



セット図

バルブ



バルブ (図番 15) を開いて真空引きを開始します。
数秒ごとにブリーダープラグを開閉してエア抜き作業を行います。

ブリーダー補助リング



最後にバルブ (図番 15) を閉じ気味にしてから、ブリーダー補助リングを
強く押し当ててエア抜き完了の確認をしてください。



各ホイールシリンダーのエア抜き完了後、ブレーキペダルを数回踏みこんで踏み代が出れば
作業完了です。

トラブルシューティング

いつまで経ってもエアが抜けない・ホース内のエアが消えない場合

- ブリーダープラグから負圧でエア抜きを行う場合、ゆるめたブリーダープラグのネジ部からエアが混入します。
- これは負圧でエア抜きを行う製品すべてに起きる現象ですが、エア抜きが完了しているか見極める方法があります。

1. ある程度フルードを吸い出しても気泡が消えない場合は、
“ブリーダー補助リング”を押しつけてください。
③ 当たり面がザラついている場合は効果が出ません。



2. “ブリーダー補助リング”が使用できない場合は、ブリーダープラグのネジ部にラバーグリスを塗ってください。

- ③ 足で踏む加圧式と異なり、ホース内が負圧になっていると気泡が大きく見えます。
- ③ 負圧式の場合、ピストンカップが劣化しているとカップからエアを吸ってしまう事があります。

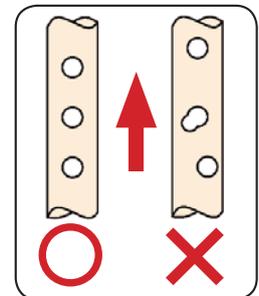


3. それでも気泡が消えない場合は以下の方法を試します。

- コックバルブ (図番 15) を少し閉じて負圧を弱めます。ホース内の気泡の流れを見てください。
- ホースを軽くつまんでホース内の気泡の流れを見てください。
- 一旦ブリーダープラグを閉め、再度プラグを開けた時のエアの流れを見てください。

気泡の大きさが規則的に流れている場合はエア抜きが完了しています。

大小の気泡が不規則に出てくる場合はまだブレーキラインにエアが残っています。



作業完了後は必ずブレーキ操作により踏み代を出してください。

その他のトラブルにつきましては以下をご参照ください。

| トラブル現象 | 点検項目 | 解決方法 |
|--------------------------|---|---|
| フルードが出ない | ・負圧を発生させて、吸引ホースを指でふさいでもメーターの針が動かない | ホースの亀裂確認 バキュームゲージで確認 (空気圧 0.5Mpa で -66kPa) |
| | ・ブリーダープラグ側が詰まっている | プラグを掃除する プラグを交換する |
| フルードの出る量が少ない | ・車両により配管が長い場合があり、その抵抗で吸引できるフルード量が減少する事がある | 車両のブレーキシステムを確認 出にくい場合はペダルを踏む (マスターシリンダーのリターンポートを確認) |
| | ・後輪側と前輪側では吸引量に差が出る | |
| 負圧が発生しない | ・トラック・バン等はプロポーションバルブが装備されていて、かなりの抵抗となる | 整備要領書を確認 |
| | ・ハイドロプスター車等のブレーキシステムでは通常のエア抜き作業ができない場合がある | |
| タンクが凹む | ・エア圧力が足りない | 0.5 ~ 0.7Mpa のエア圧が必要です。 |
| | ・ホースやタンクに亀裂 | |
| | ・タンク結合部のパッキンが劣化している | |
| | ・負圧発生装置が破損している | |
| タンクが凹む | ・エア圧力 | エア圧力は 0.7Mpa 以下 フルード温度 60℃ 以上の時は冷ましてから使用する (タンク変形防止) |
| | ・フルード油温が高い | |
| サイレンサー部 (先端) からフルードが噴き出す | ・タンクにフルードが満タン | フルードはタンクの 8分目まで溜まったら捨ててください。 |
| | ・作業中に本体を倒してしまった | ジェネレーター内部に入ったフルードを水ですすぎ、よく乾かしてから再度使用 吊り金を使用する |

※修理につきましては販売店から弊社までご依頼ください。